

2023年7月3日

## 学校関係者評価委員会 報告書

学校法人コア学園  
秋田コア ビジネスカレッジ  
学校関係者評価委員会

「専修学校における学校評価ガイドライン」に基づき、学校関係者評価委員会において「2022年度自己評価報告書」に対し、評価を行った。学校側からの説明および各委員からの意見を以下の報告書として取りまとめた。

### 学校関係者評価委員

#### <委員長>

松嶋 秀成 (一般社団法人秋田県情報産業協会 理事代理)

#### <外部委員>

吉川 裕太 (吉川税理士事務所 所長)  
浅野 雅彦 (秋田商工会議所 理事兼事務局長)  
石田 雄哉 (秋田市立秋田商業高等学校 教諭)  
畠山 昭広 (一般社団法人秋田県医師会 事務局長)  
橋本 浩 (ホテルメトロポリタン秋田 総支配人)

#### <学校側>

小林 聖敬 (副理事長)  
小野 巧 (校長)  
小玉 拓子 (事務長)  
小杉 咲子 (学生部部長)  
米谷 久志 (教務部部長)  
藤井 孝太郎 (教務部副部長、高度職業実践科主任)  
黒澤 勝 (情報システム科主任)  
大石 卓司 (ビジネスマネジメント科主任)  
舘岡 美紀 (医療事務科主任)  
生駒 伸 (ホスピタリティマネジメント科主任)

## 学校関係者評価委員会

日時：2023年6月14日（水） 17:15～18:00

場所：学校法人コア学園 秋田コア ビジネスカレッジ 103・104教室

### 1. 学校からの配布資料

- (1) 職業実践専門課程 リーフレット（文部科学省）
- (2) 学校評価委員会実施規程
- (3) 2022年度自己評価報告書
- (4) 学生便覧
- (5) 学校案内

### 2. 学校からの主な説明

#### (1) 学校評価について

##### ①学校評価の目的

学校評価を通じた組織的・継続的な教育活動等の改善、および、学生・卒業生、関係業界等の地域のステークホルダーとの連携協力による特色ある専修学校づくりの推進のため。

##### ②学校評価の定義

- ・自己評価：各学校の教職員が、当該学校の理念・目標に照らして自らの教育活動について行う評価
- ・学校関係者評価：学生・卒業生、関係業界、専修学校団体・関係団体、中学校・高等学校、保護者・地域住民、所轄庁等の学校関係者により構成された評価委員会等が自己評価の結果を基本として行う評価
- ・第三者評価：学校から独立した第三者による評価基準等に基づき、専門的・客観的立場から行う評価

#### (2) 外部アンケートの実施について

学生を対象に、2022年度の授業評価アンケートを実施し、自己評価の資料として活用した。

#### (3) 自己評価について

「専修学校における学校評価ガイドライン」に基づき、「教育理念・目的・育成人材像」「教育活動」「学生支援」の3つの視点に沿って評価項目を設定し、自己評価を行った。

### 3. 委員からの主なコメント、質問及び回答

- (1) 評価項目 「(2)-3 業界や地域社会と連携を図りながら、県内就職を推進する」  
「(5)-4 卒業生・在校生の社会的な活躍及び評価を把握しているか」  
「(5)-5 卒業後のキャリア形成への効果を把握し学校の教育活動の改善に活用されているか」  
「(8)-2 学生募集活動において、教育成果は正確に伝えられているか」

意見：学校の取り組みや新聞に載るような学生の活躍状況等について、現在は年に1～2回程度このような会議を通して報告を受けているが、より頻度を高めて情報を提供した方が良い。インターンシップ・実習で関わった企業等へ、定期的でも随時でもメルマガ等で情報提供することによって関心が高まるし、インターンシップや学生募集等の情報がリアルタイムに流れてくればタイムリーに対応もできる。もっと情報を密にして次へ次へとつなげていくと、各評価項目の評価点も上がってくるのではないかと。ひいては県内就職への促進等いろいろな効果が出てくるのではないかと思う。

回答：企業等に向けた定期的な情報提供等を行い、さらなるインターンシップ先の確保や就職につなげていけるよう、企業等とのコミュニケーションをより密にしていきたい。

この3年間コロナ禍のためできなかったことを今年度は実現したい。スピードアップを図った上で成果を出していきたい。

- (2) 意見：コロナ禍においては、特にホテル業界は厳しい環境にあるが、2023年度多くの新入生が入学されたということで期待している。現在、週末実習を行っている学生は、大変元気が良くて挨拶が素晴らしく、とても良い印象をもった。また、2022年度にも実施したコンペティションは弊社の社員もかなり刺激を受けており、産学の連携をさらに強化させていただき、人材確保という点で大いに期待したい。

回答：コンペティションについては、2023年度は10・11月に、カクテル、レストランサービス、フロントレセプションの3つを予定しており、教育課程編成委員の企業様を中心に募集をかけている。その頑張りを中学生や高校生に見てもらい、この業界を目指す若い人達を少しでも増やしていくこと、またホテル業界のスキルアップにも活かしていきたい。

- (3) 評価項目 「(5)-3 退学率の低減が図られているか」

意見：メンタル面に不安を抱える者にどう対応するかを、早めに決めておくと良いと感じている。

回答：4月の入学した頃が一番大事な時期であるため、学生の観察に努め、継続的なスクールカウンセリングを実施することでケアにあたっているところである。

- (4) 評価項目 「(2)-3 業界や地域社会と連携を図りながら、県内就職を推進する」

質問：県内就職率が2021年度よりも下回っているが、その要因は何だと考えるか。

回答：県外就職率が高いのは、高度職業実践科・情報システム科のIT系コースとホスピタリティマネジメント科である。

IT系は例年、県内と県外が半数ずつくらいだが、2021年度は県内就職率が75%と非常に高かった。主な要因は、コロナ禍で県内志望が高まった等によるもので、2023年度については現在のところ県外希望が80%と多くなっている。

ホスピタリティマネジメント科に入学する学生は女性が多く、将来ブライダル業界で働きたいという希望者が多い。県内は結婚式場の規模が縮小される等、就職口が限られてしまうため、どうしても就職口の多い県外に目が向いてしまう傾向にある。求人については、圧倒的に県外からの求人数が多く、就職活動も県外企業が早めに始まる傾向にある。学生は元々県内希望であっても、早い時期に採用内定をいただくと安心してしまい、県外求人だとしても、そこで就職活動を終えてしまうこともある。

企業連携等を通して県内就職を推進しているが、実際の就職活動が始まると学生の考えも変わり、企業等と学生のマッチングがうまく行かない場合もある。学校全体として、県内就職率80%の目標を達成できるように就職支援を進めている。

以上